

日本ミュージアム・マネジメント学会九州支部会令和3年度第1回研究会
令和3年11月20日(土)

町の「ひと」「もの」「こと」を 活かした博物館

須恵町教育委員会社会教育課
係長 山下 啓之

福岡県糟屋郡須恵町

- 福岡市の東約10キロに位置する。
- 人口は約29,000人
- 近年は福岡市のベッドタウンとして人口が増加
- 近隣の博物館
九州国立博物館・福岡県立美術館・福岡市博物館・福岡市美術館…





須恵町立歴史民俗資料館

- 開館 昭和49(1974)年、昭和51(1976)年新館増築
- 鉄骨造2階建
- 収蔵資料 約14,000点

- 令和2年度入館者数 1,285名
過去5年間の平均 約2,900名
- 令和3年度管理運営費
2,330千円(人件費除く)





須恵町立美術センター久我記念館

- 昭和54(1979)年 久我五千男氏の個人私設美術館として竣工
- 昭和59(1984)年 久我氏逝去、建物等は遺族より町に寄贈 コレクションの大半は福岡県立美術館に
- 昭和61(1986)年 町美術センター久我記念館となる

- 鉄筋コンクリート造2階建
- 須恵焼と地域の作家の作品を収蔵
- 令和2年度入館者数 3,980名
過去5年間の平均 約5,700名
- 令和3年度管理運営費
3,764千円(人件費除く)



両博物館の運営について

「ひと」

ワンオペでもできることは？

【社会教育課職員】

- 歴史民俗資料館
館長1名(兼任) 学芸員1名(兼任) 業務委託(学芸員補助1名、
受付業務2名)
- 久我記念館(美術館)
館長1名(兼任) 学芸員1名(兼任) 業務委託(受付業務2名)
- 社会教育課(文化会館内)
公民館長、課長、課長補佐
社会教育班：係長(文化財担当)、主任主事(公民館担当)、主
事(人権・同和教育担当)
社会体育班：課長補佐(兼任)、主任主事(スポーツ担当)、
主事(青少年教育担当)
業務委託(舞台監督、ホール受付業務委託各1名)
- 図書館 館長、係長、業務委託(司書)

博物館に関わる人々

- **業務委託スタッフ(学芸員補助)**: 収蔵台帳作成、展示企画作成、小学校見学対応、見学プログラム作成
- **業務委託スタッフ(受付)**: 展示作業の手伝い、facebook作成、体験教室(しめ飾り)指導
- **ボランティアグループ(Museum Project)**: 台帳電子化、ホームページ作成、展示企画
- **小学校区コミュニティ**: 史跡めぐりウォーキング、イルミネーション事業、展示
- **生涯学習講座「絵と遊びましょう」**: 受講生が絵画サークルを立ち上げ、 展覧会を開催
- **生涯学習講座「須恵町歴史探検」**: 町の歴史に関する講話+バスハイク(史跡めぐり)
- **須恵美術クラブ**: 美術クラブ展開催、美術館大掃除
- **須恵町文化協会**: 糟屋地区美術展優秀作品展の開催
- **九州産業大学造形短期大学部**: 学外アートプロジェクト(高齢者遺影撮影、パブリックアート作成・モニュメント作成)
- **福岡大学**: 博物館教育論(非常勤講師)、博学連携事業
- **須恵高校**: 書道部・美術部合同作品展、パフォーマンス
- **中学校**: 職場体験、中学校美術部展(1日学芸員体験)
- **小学校**: 社会科見学、小学校児童画展、かすや・キッズ・アート・フェスティバル
- **幼稚園・保育所**: 作品展

町民一人一人が何らかの形で一度は博物館と関わっている。

博物館に

「関わってはいけない」
人はいない。

「もの」

開館時のミッションに応える

資料館開館に伴う 資料提供のお願い

須恵町立歴史民俗資料館完成！！

開館は49年4月初旬



主 旨

時の流れの速さは、古くから伝えられてきた民俗資料を私達の生活の中から消そうとしています。これらの資料を保存展示することにより、過去と未来を結ぶ現在を適確につかみ、我々の祖先がどのように生活し何に生きがいを求めていたか、その手がかりを知り、それを私達の生活の中にとり入れ、また子孫に知らしめることにより新しい文化創造への資料に供する。

資料収集について

資料収集については、資料収集委員のみな様方を中心に教育委員会等で行っています。心当たりがございましたら、収集委員の方か、教育委員会に連絡お願いいたします。収集は、寄贈、購入、借入の方法によります。また資料収集委員のみな様は次の通りです（敬称略）

- 貝原 隆(佐谷)、○須原政次(上須恵)、奥村 昶晤(一番田)○渡 信(川子)
- 今村知三郎(須恵)、○今泉 巖(甲植木)、合屋惣次郎(乙植木)、藤 利雄(旅石)
- 山元国吉(長礼)、天野孝祐(飛 越)、安高善己(新 原)、紫山徳三郎(新生)
- 川口住夫(若葉)、深川寛二(須恵西)、城戸 清(旭ヶ丘)、○石橋 正(千代住)
- 阿世賀輝雄(昭穂)、○要永日出男(高丘)、吉副松男(喜多)、山本熊次(清 松)
- 尾花正義(大星)、○浅田光男(衆楽)

どんなものを集めるか。

例えば下記のような品物です。日常生活のうつりかわりを理解するために欠くことのできないもの。

- ・衣服装身具 みの、かさ、あしなか、ぞうり、わらじ、火のし。
- ・飲食用具 かくせん、つのだる、べんとう箱、か め、だいこんおろし、会席膳、各種鉄びん。
- ・光熱用具 てしよく、あんどん、いろいろ、かまど、ひばち、こたつ、ゆたんぼ、がندوق。
- ・家具調度 たんす、つづら、きぬた、こうり、まくら。
- ・住 居 炊事場、いろいろの間、地づき。
- ・農 具 耕起具、調製具、農具製作具、中耕除草具、農産加工具。
- ・狩 猟 具 うてば、うつかふせ、わな。
- ・工匠用具 きこり用具、二人引のこ。
- ・紡 織 具 はた、もめん車、ひい、おさ。
- ・運 搬 具 車力馬車、もっこ、めご、てんびん棒。
- ・計 算 具 そろばん、やたて、ます、ちぎり。
- ・看 板 くすり看板、書籍看板。
- ・警 防 龍吐水、とびぐち。
- ・信 仰 巡礼服、石像。
- ・医 療 具 やげん、民間薬、売薬。
- ・娯 楽 具 びわ、ほらがい、しめだいこ。
- ・節 句 用 具 ひな。
- ・そ の 他 須恵焼、旧志免鉱業所等に関する資料、特に須恵町に関するあらゆる歴史資料。

須 恵 町 教 育 委 員 会



皿山公園に完成した 地方歴史民俗資料館

心のふるさと 歴史民俗資料館

政令都市福岡市から東へ十二キロの地点に位置するところ、筑紫山脈の一翼若杉山と岳城山の雄大な自然の風情を背景に、町立「皿山公園」があります。この地からの粕屋平野とそれに連なる町、大福岡市、博多湾や玄海灘の眺望はまた格別です。

この公園内に、老人憩の家「若水荘」、須恵焼窯、老人休養ホーム「恵山閣」とともに、松林に囲まれた閑静なたたずまいの中に、優雅な風格と日本建築の新旧の美を備えた建物がありこれが須恵町立地方歴史民俗資料館であります。時の流れの早きは、昨日あつたものがもう今日には姿を消していることがしばしばあります。また今日の消費文明は新しいものを軽視がちです。このような社会構造の中にあつて、大きな文化的損失を蒙らないよう、一日も早く歴史民俗の諸資料を収集、保存する

ことは、社会教育にたずさわる者の義務であります。また急速な都市化の流れは生活様式、生活環境を一変してありますが、その中にあつて過去から未来に続く「現在」を適確につかみ、我々の祖先がどの様に生活し、何に生き甲斐を求めていたかを知ること、また、私達の責任でもあります。

ここで、須恵町の文化財を二、三紹介して見たいと思います。

●大日如来並に十一面観音 (県指定有形文化財)
第50代桓武天皇の御代延暦23年、最澄(伝教大師)が宗像郡にあつた大樹を切り二体の大日如来を彫刻、本木の如來を其里(本木邑)に、中木の如來を那珂郡中村に、末木の如來を須恵の観音谷にそれ／＼安置し同時に十一面観音を彫刻し安置誓願されてより、祭り続けて今日に至つてゐる。

●高島居城跡
永仁元年3月、河津築後守貞重により築城されたが

天正14年7月20日島津兵庫と頭義弘が岩屋城(四王寺)を攻め落し、城主高橋昭運以下ごとく討死、あるいは丹書して果てたので、その余勢をもつて高島居城を攻略、高島居城主杉弾正忠重以下防戦につとめたけれども、とう／＼7月下旬落城した。翌天正15年秀吉の命によつて高島居城をとりこわし、その後は荒れるにまかせ、千貫敷の小笹だけが昔の「つわものどもの夢の跡」を無言のうちに物語つていたが、昨年NHK支局の放送塔が建ち、展望台も建設中で、町民の手ごるなハイキングコースとなつております。

●須恵焼窯
第7代藩主黒田治之公が間にも製陶を計画し、上須恵村字皿山に原料が豊富で地の利がよいというので、ここに敷地を選び、肥前の職工と高取焼の職工をもつて製作させた。これが須恵焼のはじめで、優秀な清卒磁器の産出を見るようになった。

と藩政の改革により官舎は衰滅に至りましたが、嘉永・安政年間第11代藩主黒田長浦公は、大いに殖産興業に意を注ぎ、須恵焼もその事業の一つとして復興されました。安政の末年新たに須恵皿山役所が開設せられ万延元年には京都より有名な陶工沢田舜山という人を迎へ、職工等も多数の老練者を加え、数十の水車を設置して多量産出の基礎を築き、筑前名産須恵焼の名声はほとんど全国に宣傳されるようになりまし。

この時代の作品は、おもに蒲邸用度のもので無銘のものも多く、稀に「スエ」と銘したのもあります。筑前藩はこれを國産として、寛政年間には幕府の大興に種々の作品を献上しております。その後藩主の死

所時代までの貴重な資料の保存で、これは本町以外では考えられないものであります。

資料館は昨年9月完成しましたが、湿気を除くため資料の搬入はまだ行つておりません。

正月に資料館長として飯橋謙吉先生をお迎えし、収集委員の指導、資料の収集分類等に拍車をかけ、早期開館を目指して努力中ですから、開館しました節は、多くの方のご来館をおまちしております。

「教育福岡」11月号より転載

『町報すえ』 昭和49年1月号 資料館開館に向けて

人口のうごき

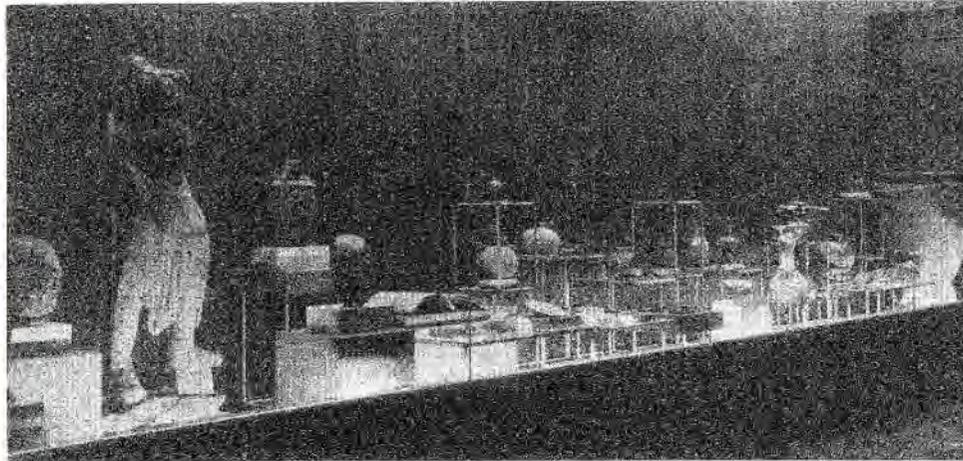
(6月1日現在) (前年比)
男 6,944人 (+408人)
女 7,331人 (+396人)
計 14,275人 (+814人)
世帯数 3,788戸 (+268戸)

町報すえ

8月25日は
郡民体育大会
— 須恵町で開催 —

発行所 福岡県粕屋郡須恵町役場
印刷 小林印刷株式会社

◎ 節水にご協力をお願いします。



歴史民俗資料館

七月十日に開館

現在「それを過去と未来をつなぐ点としてみつめてみたい。遠い昔から今日まで、この筑前の国の一角に脈々と流れている生命力、その様々な生活用具やうつり変りの跡などにふれることによって、現在の生活を一段とはっきりさせ、将来のあるべき姿をさぐってみたい。こんな気持が、文部省の勧めによって、地方歴史民俗資料館」として7月10日皿山公園の中に開館いたしました。

板橋館長を中心とする職員らの努力、資料収集委員の暖かいご協力、そして資料を供与、貸与された方々の深いご理解が、見事な花を咲かせ、参観者一同の心をうちました。

また収蔵品も多くなく、展示様式も安定していません。いま生れたばかりの子のようなものですので、今後町民みなさんのご協力ご指導、助言が必要ですが皿山に米られたら是非立ち寄って参観して下さい。

- ① 開館日時
毎日午前10時から
午後5時まで
- ② 休館日
毎週月曜日
- ③ 入場 無料
- ④ 展示の概要
Ⅰ 須恵町概事
須恵町内の主な民俗行事を四季を追ってつづつていきます。
- Ⅱ 民具
大きな民具、商業・工業醸造などの道具、社寺信仰行事、消防などを陳列。
- Ⅲ 粕屋地方の文化財と歴史
弥生時代から古須恵時代までの出土品。

須恵にゆかりのある「須恵器」も陳列。

④ 展示ケース
⑤ 玩具
正月の子供遊具、郷土玩具、からくり玩具など。

⑥ 漆喰資料
旧海軍炭坑はなやかなりし頃をしのぶ諸資料。

⑦ 須恵の目くすり
須恵の眼医者と目くすりはかつて全国に有名で、治療のため滞在する者日に数百余人といわれ、宿屋も35軒が軒をならべていたという。

⑧ 舶来文化
明治時代の舶来文化が華やかさを添えている。

⑨ 手仕事用具
私達の生活を支えて来た手仕事の諸用具。

⑩ 婦人用具
⑪ 農水産具
農民の労働と生活の実態を目と肌で感じ取ってもらえたら……と期待します。

又、かつて行われた「養蚕」の關係用具もあります。

⑫ 須恵焼
黒田藩直営の磁器窯から焼き出された「須恵焼」は、天明や古伊万里にも劣らないすぐれたものもあります。以上は館内に展示されている数多い資料の一端です。是非直接自分の目で昔の人の遺されたものを確かめられたいことをお祈りいたします。

『町報すえ』 昭和49年7月号 資料館開館の記事

町の人が博物館に託した「資料」
→ 寄贈者・寄託者の気持ちに応える

「今度古い家を解体するので見に来て欲しい」という連絡が入る博物館

資料だけでなく、寄贈者の記憶、思い出も収蔵資料に。
→ 地域の“キオク”を次世代の子ども達に伝える。

常識の範囲内で
博物館に

「収蔵してはいけない」
ものはない。

「こと」

お互いがwin-winの関係で
地域課題に応える

小学校校区コミュニティとの連携による 「地域の魅力再発見」

小学校校区内外の史跡をめぐるウォーキングイベントにコース設定のアドバイスと当日ガイド役として参加。イベントの企画運営はコミュニティ事務局が行うため、ハンドマイクを持ってガイド役として参加（講師派遣依頼）。最初は校区内から開始し、校区外や隣町まで範囲を広げた。

神社仏閣や石碑、お堂など、普段意識せずに通っていたものへの見え方が変わるきっかけを作った。

九州産業大学造形短期大学部との連携による 「高齢者福祉」「施設の価値を高める」

町と大学が「学外アートプロジェクト業務委託」を締結している。学生は単位所得できるとともに町はアートイベントが実施できる。これまでモニュメント制作、高齢者遺影撮影、壁画制作を行ってきた。

高齢者遺影撮影は、区長会・老人クラブ・社会福祉協議会と連携して実施している。学生がメイク、撮影、画像処理、氏名を筆で書き、その場でプレゼントする。高齢者との世代を超えた交流の場となっている。

壁画は、最初にアザレアホールでトリックアートを制作した。それを契機にほたるの湯（福祉課）、庁舎非常用発電フェンス（総務課）など他課からも依頼が来た。

また、都市整備部局は、補助金メニューを用いてJR須恵駅や九州自動車道のボックスカルバートに壁画を制作するなど、現在町内には10箇所作品がある。

何もない空間に壁画が描かれることによって「意味のある空間」へと変身する。

高齢者遺影撮影プロジェクト

公共施設や公民館でスタジオを設営して撮影会を実施。1日で約100名実施。



学生にメイクされ、イヤリングやネックレスをつけてすまし顔のおばあさん。カラオケの舞台衣装を持参されたおじいさん。出来上がった写真を恥ずかしそうにお友達、夫婦でお互いに見せ合ったり、参加者の顔から笑顔がみられた。



壁画プロジェクト

公共施設をキャンバスに
さまざまな作品を制作。



須恵高校書道部と地域との

「つながりづくり」

須恵高校書道部は、全国大会・九州大会に出場する実績があるものの、町内に周知されていないなかった。

展覧会の開催を飛び込みで依頼し、開催した久我記念館での展覧会、パフォーマンスを契機に、小学校校区夏祭りでのパフォーマンスや町制施行記念駅伝大会の賞状の揮毫、糟屋地区美術展の出品、福岡 I ブロック芸術文化の集いの出場(予定)など、地域で活躍する場が増えた。



須恵高校書道部パフォーマンス

町内各所でパフォーマンスを実施



小学校と博物館との

「博学連携」

民俗資料に「触れる」ハンズオン体験を組み合わせた見学プログラムを町内3小学校全てで実施している。本物と出会い、「触れる」体験を子どもたちは生き生きと活動する。

その学習効果は、先生方によって次の学年や新たな赴任校へと広まる。先生による「クチコミ」が、学校との関係を深める最も効果的な手段となっている。

博物館の
「出番」
はどこにもある。

生存戦略

「サポーターを増やす」

「活かせるものは全て活かす」

「困ったときは“博物館”」